



医療機関の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

機能的脳神経外科のご紹介

機能的脳神経外科とは、パーキンソン病・ふるえ・なかなか治らない痛み・痙縮を手術や特殊な薬を使ってなおす医療です。

1) パーキンソン病を手術でなおす

パーキンソン病は、ふるえや体が動きにくくなる病気で、近年増加しています。

初期には、薬がききますが、進行すると薬だけでは、症状が改善しません。

この時、脳を電気で慢性的に刺激する脳深部電気刺激療法を行うと、劇的に歩けるようになったりします。



2) ふるえを手術でとめる

薬で治らないふるえが、脳深部刺激療法で、手術直後から改善できます。

3) 神経因性疼痛（難治性疼痛）を楽にする

ヘルペス後の痛みや脳卒中後に生じる厄介な痛みを脊髄や脳を刺激することで軽減することができます。

4) 痙縮を特殊な薬で良くする

痙縮とは、脳卒中や脊髄損傷のあとで、手足が固く動きにくくなる病気です。



当院では、ボトックスやバクロフェンの持続髄腔内投与により、痙縮を改善し、日常生活が楽にできるようにする

奈良医療センターでは、毎週木曜日に特殊専門外来として、『機能的脳神経外科』の診察を行っております。予約制となっておりますので、診察希望の方は事前に地域医療連携室までご連絡ください。



担当医師：平林 秀裕

独立行政法人 奈良医療センター
国立病院機構 特命副院長

日本定位機能神経外科学会 理事
日本ニューロモデュレーション学会
評議員